

1. 日 時 令和4年7月6日(水) 10:00~11:00

2. 開催場所 本山製作所青葉アリーナ (青葉体育館) 1階会議室

3. 出席委員名(敬称略)

役職	氏名	出欠
会 長 (仙台大学 教授)	仲野 隆士	○
副会長 (東北福祉大学 特任教授)	鈴木 玲子	○
委 員 (アイスリンク仙台 専属インストラクター)	阿部 奈々美	○
委 員 (仙台市中学校体育連盟 会長)	石川 一博	×
委 員 (東北学院大学 准教授)	岡崎 勘造	○
委 員 (仙台市小学校教育研究会体育研究部会 常任委員)	岡本 美佳	×
委 員 (仙台市スポーツ協会 副理事長)	草刈 恵佐雄	○
委 員 (仙台市障害者スポーツ協会 会長)	熊谷 勇一	○
委 員 (仙台市レクリエーション協会 会長)	小池 和幸	×
委 員 (東北電力株式会社 地域共生ユニット部長)	今田 広志	×
委 員 (仙台市議会議員)	斎藤 範夫	○
委 員 (宮城教育大学 教授)	佐藤 節子	○
委 員 (仙台市スポーツ推進委員協議会 常任理事)	佐藤 園子	○
委 員 (東北学院大学 教授)	篠崎 剛	○
委 員 (東北生活文化大学 名誉教授)	土井 豊	○
委 員 (仙台市学区民体育振興会連合会 会長)	堀江 新一郎	○
委 員 (東北大学 副理事)	村松 淳司	×
委 員 (仙台市スポーツ少年団 本部長)	吉田 尚	○

4. 説明に出席した者の職・氏名

文化観光局長	金子 雅
文化スポーツ部長	大森 武宏
スポーツ振興課長	齊藤 淳志
スポーツ振興課 主幹兼企画係長	田中 輝
スポーツ振興課 主任	分田 亜矢子
スポーツ振興課 主事	大波 智仁
スポーツ振興課 主事	武者 望美

5. 会議の経過

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 報告事項及び議事の内容

進行役：仲野会長

議事録署名人の指名：篠崎委員

仲野会長

次第に基づきまして、進めてまいりたいと思います。

まず、本日の会議事録へ署名いただく委員につきまして、指名させていただきたいと思いますが、今回は篠崎委員へお願いしたいと思います。篠崎委員よろしいでしょうか。

篠崎委員

わかりました。

仲野会長

それでは、篠崎委員に議事録への署名をお願いしたいと思います。

これより報告事項に入りたいと思います。

まずは、報告事項1 令和3年度主要事業等について、報告事項2 令和3年度補助金の交付について、事務局より説明をお願いします。

事務局

お手元の報告資料に基づきまして説明させていただきます。報告資料1をご覧ください。

令和3年度の主要事業等についてでございます。令和2年度に引き続きまして、「仙台国際ハーフマラソン大会」や「マイタウンスポーツデー」等様々なスポーツイベントが新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったところがございますけれども、「全日本大学女子駅伝対校選手権大会」や「リレーマラソン」等につきましても、感染症対策を講じながら実施することができました。

つづきまして、報告資料2をご覧ください。

各スポーツ関係団体の皆さまへの補助金の交付についてでございます。交付金額につきましては報告資料2のとおりでございます。こちらにつきましても、各団体、地域におけるイベント等が新型コロナウイルス感染症の影響で活動が縮小する等ございましたのでそれに基づく助成額につきましても少なくなっており全体としては前年度と比べて若干少なくなっているところでございます。

仲野会長

只今事務局より説明いただきましたが、何かご意見等がございましたらお願いいたします。

仲野会長

特にございませんようでしたらお認めいただいたということで次に進めていきたいと思ひますがいかがでしょうか。

全委員

異議なし。

仲野会長

ありがとうございます。つづきまして報告事項 3 令和 4 年度主要事業等について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局

お手元の報告資料 3 をご覧ください。

本年度の主要事業等についてご説明させていただきます。

令和 4 年よりスタートいたしました「仙台市スポーツ推進計画」におきましては、「人とまちが元気に輝き続ける-Sports City SENDAI-」を目指す姿といたしまして、スポーツの推進を図り、市民の健康増進をはじめとする諸課題への対応をはじめ、本市に拠点を置くプロスポーツチーム、企業、大学等との連携やスポーツコミッションせんだいの活用によるスポーツを通じたまちの活性化にも積極的に取り組んでいくこととしております。

それでは、計画の 3 つの基本方針に基づいて説明させていただきます。

まず、基本方針 1 アクティブライフの推進でございます。こちらは、市民一人ひとりが自分にあった形で意識的に体を動かす「アクティブライフの推進」に向けまして、気軽に体を動かすきっかけづくりや継続的に運動をしていくための取り組みを進めていくこととしております。具体的には、今回の計画策定における現況調査におきまして日常生活において比較的運動する機会が乏しいとの結果が出ております女性の方を対象に、在仙のプロスポーツチームや企業、大学の皆さまとの連携により継続的に体を動かしていただくための仕組みづくりに取り組んでいくことを予定しております。この取り組みの詳細については、後程あらためてご説明させていただきます。このほか、基本方針 1 につきましては継続的に体を動かしていただくための取り組みといたしまして、ご高齢の方を対象とした元気はつらつチャレンジカードという制度が本市にはございますけれども、こちらは一定程度ご利用いただいた場合に次回施設を無料でご利用いただけるという制度になっておりますが、その無料となる回数を少なくしましてより早いタイミングで次の無償利用の機会を提供できるようなご利用いただく方の意欲向上を図る取り組みをしております。

つづいて、基本方針 2 地域コミュニティ活性化につながるスポーツ機会の充実についてでございます。先程冒頭仲野会長からもお話しがありましたけれども、昨今あらためてまた新型コロナウイルス感染症の陽性者の拡大はしておりますけれども、市民参加型の多様なスポーツあるいはレクリエーション大会等のイベントをそのような状況の中でもなんとか開催できるような取り組みをしてまいりたいと考えてございます。これまで 2 年間様々な大会等は中止してございますけれども、本年度につきましては今申

し上げましたように毎年体育の日に実施しております「マイタウンスポーツデー」ですとかなんとか実施できるような方法を探っていくそのような方針で準備を進めてまいりたいと考えてございます。

つづいて基本方針 3 スポーツを核としたにぎわいの創出についてでございます。去る 5 月に開催いたしました仙台国際ハーフマラソン大会 2022 チャレンジレースについては様々な感染対策を講じまして実施をし、規模については従来の 10,000 人から縮小して 4,000 人程度ということで開催いたしましたけれども、ご参加いただいた多くのランナーの皆さまには 3 年ぶりに仙台市中心部を走ることができたという喜びの声ですとか、新緑の定禅寺通を走ることができてうれしい、などそういった声をいただいております。引き続き、スポーツコミッションさんだと連携をしながら、このような大規模スポーツイベントの開催や誘致に取り組んでまいりたいと考えております。

次のページをご覧ください。基本方針 1 において触れましたアクティブライフの推進につきまして本年度の具体的な取り組みをご説明させていただきます。ご覧いただいております「いいね！スポーツ」さんだいいアクティブライフスタイル推進事業でございますけれども、こちらは市民一人ひとりが自分に合った形で意識的に体を動かすアクティブライフスタイルを推進するため、運動習慣が比較的乏しいと思われる方を対象に啓発の取り組みと実際にスポーツに取り組んでいただく実践の取り組みの両方のアプローチで体を動かすことの習慣化を図るそういったことを目的とした取り組みでございます。実施にあたりましては、ミズノ株式会社様、東北大学様、株式会社東日本放送様、株式会社楽天野球団様等と連携をとりながら進めていくこととしておりまして、具体的な期間としては、本年 8 月から来年 3 月までの 8 ヶ月間を予定して現在準備検討をしているところでございます。

お手元の資料の図の上段部分をご覧ください。こちらは啓発を想定した取り組みでございますけれども、市政だよりをはじめテレビ番組、SNS 等の媒体やイベントの活用を通じましてアクティブライフスタイルを効果的に発信してまいります。活用するイベントといたしましては、従来から体育の日に実施しておりました「マイタウンスポーツデー」ですとか本年より新しく取り組みます「はじめてスポーツフェスタ」等、そのほか現在一緒に検討しております khb 様や東北楽天野球団様との連携によるイベントも予定しております。

次に実践のパートでございます。資料の下の部分をご覧ください。スポーツを比較的实施する機会が乏しいと想定される女性の方 500 名を対象といたしまして「ウォーキング教室」等を実施してまいります。500 名のうち 100 名の方については直接受講していただく「ウォーキング教室」や「ランニング教室」、そのほかの 400 名の方についてはそれぞれの方が動画や健康アプリを活用して受講していただくそのような取り組みを予定しております。

す。また、スポーツへの関心や意欲を高める工夫といたしまして、こういった具体的なスポーツメニューに加えて例えば楽天野球団の試合観戦ですとか、女性の方を対象としておりますのでメイク講座、スポーツファッションの提案なども盛り込んでいく予定としております。また、教室と並行いたしまして、ながら運動の提案や健康アプリを活用した歩数目標の設定などを行いまして運動するためのインセンティブの提供を通じた習慣化などを図ってまいりたいと考えております。このほか事業期間中にはサブイベントといたしましてスポーツと食をテーマとして実施する事業ですとかスポーツをテーマとした動画配信も予定しております。

つづいて、先程も申し上げました本年度取り組みます新たな啓発事業である「発見！はじめてスポーツチャレンジフェスタ 2022」についてでございます。こちらは11月23日祝日の開催を予定しております。会場としては新田東総合運動場を予定しております。主な対象としては、市内在住の小学校1年生から3年生のお子様とその保護者の方を想定し、親子で野球やサッカーなど様々なスポーツ種目を体験してもらうことにより各種目の魅力を伝えるとともに自分に合ったスポーツを発見する機会の提供を想定しております。また、在仙のプロスポーツチームや実業団チーム等の方々にも一堂に会していただきまして、更に啓発効果を高めていくというようなことを想定しております。以上、本年度の取り組みについてでございます。

仲野会長

詳細なご説明をいただきありがとうございます。ただいま事務局よりご説明いただきました資料3ですが、これについてぜひご意見等をいただければと思います。いかがでしょうか。

土井委員

スポーツの習慣のない女性を対象としているとのご説明でしたが、女性に限ったというのは何か意図があるのでしょうか。また、もう一つは男性が参加したいというときはどのようにすればよいのか。もう一つは、運動習慣のない高齢者の方もいると思いますけれども健康チェックといいますが、持病をお持ちの方もいるかもしれない運動中に何か起きたらどうするか事前の健康チェック等を入念に行うのかということの3点をお伺いしたいと思います。

事務局

まず、今委員からご質問いただきました女性をターゲットとした理由についてでございますけれども、今回4月より新しくなりましたスポーツ推進計画をつくるに際しまして市内の方々がどれくらい運動習慣があるのかという調査をさせていただきました。その時の結果といたしましては、現役世代の女性の方が同じ世代の男性に比べると20代から40代にかけて働き始めの頃や恐らく子育てが比較的忙しくなるあたりで男性と比べるとやはり女性の運動習慣が下がってしまうという結果でございました。当然、全年代で見た時に例えばご齡の方の運動の啓発、男性への運

動啓発などが必要になってくるわけですけれども、恐らくそれぞれいおいてなぜ運動ができないのか理由も様々だと思っております、まずは今の結果において相対的に運動機会が乏しいと思われる女性をターゲットにしてこの取り組みを試行的にやらせていただきたいということで、まずは女性をターゲットにしたところがございます。例えば男性にしたらどうか、ご高齢の方についてはどうかそれぞれの対象となる方によって可処分時間がどのくらいあるのかということは様々かわってまいりますので、まずは本年度女性をターゲットにしてこういったインセンティブを設けるとどういった効果があるのかという取り組みをさせていただいて、それを通じてではご高齢の方だとどうか男性の方だとどうか次年度以降の取り組みにつなげていきたいと考えてございました。あともう一つ、取り組みをする前の健康チェックについてでございます。今申し上げた本年度の取り組み、様々な企業、大学の方とも今取り組みの詳細を詰めているところがございますので委員からご指摘いただいた安全に取り組んでいただくための事前チェックなどもしっかり対応できるよう今後の検討を詰めてまいります。

土井委員

安全性に気を付けて行った方がいいと思いますので、よろしくお願いたします。

仲野会長

今年は女性をターゲットにということで、まずはそれをしてみて、次年度には別のターゲットになるかもしれませんがやっていくということだと思います。ちなみに、フォローアップについてはどのようなことを検討されていますか。

事務局

フォローアップというのは、来年度はどうするかということでよろしいでしょうか。

仲野会長

いえ。ウォーキング教室やランニング教室に参加された後、例えば3ヶ月後に何かチェックをすとかといったフォローアップのことです。

事務局

ありがとうございます。今回の取り組みは4回シリーズで想定しておりますけれども、実際1回目を始める前にご参加いただく方々の健康状態とかその時点の体の状態を測定しまして4回シリーズが終わりましたら結果それがどうなったかというのをあらためて測定して結果をフィードバックするというのを想定しております。

仲野会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

岡崎委員

今のお話しですが、どういった評価をされていくのでしょうか。という

のは、たぶんこの目的がアクティブライフスタイルの定着だと思うので例えば血液を採ってコレステロール値が高かったのが下がったとか血圧が下がったとかというのが目的というよりも、どうやってそれが定着したのかということ測るのかと思ったのですが。

事務局

今の岡崎委員からご指摘いただきましたようにフィードバックの返し方というのをどの時点で見るとかということに違いがあるのかと思っています。例えば、個々人がより運動していこうという動機づけにつながるといことと、今、委員が例示されましたように例えば個々のバイタルデータが改善されたかということ返すことで、「ああ、こんなに改善したんだ」という気付きを与えることになりそうですし、施策としてアクティブライフが定着したかということと一人一人というよりも参加された皆さんの普段どれくらい運動していたかという数値がシリーズが終わった後で生活習慣がどう変わったかという風なことだったり、あるいはこういうことがあるかわかりませんが教室のスタートが100名だったのが最後まで続かずに途中で脱落してしまったりということだったりすると、なかなか続けられなかったということになるでしょうし、そのような意味ではどういう指標でみていくかについては今のところは個人のバイタルデータをとるとかという事は考えておりますけれども、もう一つどうアクティブライフが定着したかということについてはどのようにみていくか、例えばアンケートをとる形がいいのかどのように測るかというものは今詰めているところです。

岡崎委員

ありがとうございます。となってくると、2月3月に入ってくると思うので一般的に冬になると寒いのであまり動かなくなるのが一般的だと思うのでその辺が指標として効果がでるのか、バイタルデータを見るのだとすればバイタルデータに問題がある対象者を集めるということになると思うのですけれども、80名という枠組みの中に特に若い世代の方を対象としているのであればバイタルデータとしてそこまで問題のない方が集まってくるような気もしたので医学的な指標を見せてフィードバックして動機づけになるということはわかりますが、それは恐らくご高齢の方はそれで動機づけになりやすいですが若い世代にとってはどうなのか疑問に感じます。

事務局

私の説明も、只今、委員のおっしゃるような形の説明になってしまっていたのですけれども、例えば健康診断の時に採決をしてコレステロール値がどういところまで入り込む数値としてフィードバックするのかたぶんそのアプローチだと今委員がおっしゃったように比較的若年層の方高齢者の方とかもつと言えれば基礎疾患の有無とかそのようなところで大きく変わってくるので、疫学的に意味があるのかという議論になってきて

しまうのですけれども、私が先程申し上げた趣旨としてはもうちょっと簡単な数値で民間のスポーツジム等に行きますと簡単に体脂肪率だったり一般的に言われている肥満度などの簡易な数値でもって一定程度の筋トレをした時に一カ月程度のダイエットプログラムのようなものでどれくらい効果があったかを返したりしてされている民間のジムがあると思いますが、今回想定しているのはそういった意味では疫学的に事前に統一的に同じ条件の人を集めるということではなくて無作為に一定数の人を集めますからそれぞれの方が医学的にどうかというよりも「ちょっと良くなったな」とよりライトなレベルで「そうか、こういう風に変ったんだな」と思えるような数値を返すことがいいのかなと思っておりまして、それでも冬の時期に行うということは季節の中で運動しなくても夏場は新陳代謝が上がりますから下がりやすかったりとかそういうこともありますので、そこはどのような形であればある程度正確にといいますか学術的に正確にとはいかないまでも普段の動機付けとして返して正しい今回検討メンバーに入らせていただいている東北大学の永富先生、以前この審議会でもお力添えをいただいた永富先生にも関与していただいているという観点でどういうフィードバックの仕方が正しいのかというのもご助言いただきながら整備しているところでございます。

岡崎委員

わかりました。

斎藤委員

テレビで健康器具やサプリの commercials が多いのでそれと重なっているような気がして。ビフォーアフターのような。確かにこのような試みは、スポーツ推進計画のスポーツの定着という観点から面白い試みだとは思いますが、単発では非常に面白いと思うのですが、5年間の計画の中の初年度としての位置づけと、次年度以降にどのような展開のイメージをお持ちなのでしょうか。

事務局

今、委員にご指摘いただきましたように、中間見直しの5年までの長期スケジュールだったり現時点で詳細に詰めているかということとそこまでは今のところないのですが、計画における指標であるどれくらい運動しているかというのはそういう意味では例えばアンケートをとって皆さんが普段の中でどうしているかというのを返してもらってこの数値が目標になっているということは単一の取り組みで改善されるというよりは様々な取り組みの総体として対象となる市民の皆さまの日々の中で運動しているという割合が増えればいなどというふうになるかなと思ってますので、そういう意味ではまず今ご説明いたしました本年度の新しい取り組みですけれどもこの延長線上にまた来年度、再来年度とやっていくというものもあるかもしれませんし本年度の取り組みを通じてまた違うものを来年度という形もあるかもしれませんので、まずは本年度の取り組み

みをみながら考えてまいりたいというのが現状でございます。委員にご指摘いただいたような先々の5年もそうですし、更に後半の10年に向けてどういったことをやっていったらいいのかというのは今の取り組みを進めながら更に詰めてまいりたいと思っております。

齋藤委員

今回策定したスポーツ推進計画の目標というのがある意味ほんわかとか曖昧とまでは言わないけれどもそういうものなので、こういう取り組みを通して誰でも多くの人がスポーツに参加したということでそれなりに実績としては積みあがっていくものだと思うんです。しかしながら市民の健康を考えた時に、やはりスポーツというアプローチによってどれだけ貢献できるかということが大事だと思うので、初年度だから対象は女性だということですがけれども、やはり年度展開していく中ではできるだけより拡大できるような取り組みを、ぜひ多くの人に参加できるような取り組みをお願いしたいと思います。

吉田委員

動画によるウォーキング教室と健康アプリの活用と400名の女性限定でありますけれども、女性の方限定でもいいのですが、同時配信していつでも誰でも見れる、誰でも参加できるという形にしておけば一般の市民の人もそこに入っていけるということもあるので、教室は教室でよいのですけれども、いつでもこういうことを発信しているよという形にさせていただけるともっと一般の市民の皆さんも参加できるのかなと思いますのでご検討いただければと思います。

事務局

ありがとうございます。今のご意見を踏まえて検討して参りたいと思います。

仲野会長

大変貴重なご意見だと思います。私からもぜひお願いしたいのは、せっかくkhh社屋を使われるのでプロモーションという意味でもニュースにのせていただくとか新しい活動を仙台市がやりましたということをぜひアピールしていただけるようなことをぜひ試みていただければと思います。

事務局

はい。検討いたします。

仲野会長

女性の委員の方も本日4名参加されていますけれども、どなたかいかがでしょうか。

佐藤委員

もし自分が参加しようと思った時に、平日にやるのか休日にやるのか対象によって違ってくるので、例えば平日だったら自分は仕事があるから参加できないとか。どういう人を対象にしているのでしょうか。

事務局

冒頭、なぜ今回ターゲットとして女性を考えたというところで申し上げましたけれども今想定しておりますのはメインとしてはやはり現役世代の女性の方というのを想定しております。その意味では、今委員がご指摘くださったように、実施スケジュールについては対象となる方々の参加しやすいように調整してまいりたいと思います。

佐藤委員

仕事をしていない人もいます。例えば、子育てが忙しくて運動できないという方のためには子供を預かるとかそういうことも考える必要があるのでは。

事務局

現時点でどういう付帯サービスを用意してというのは、まだ詳細全ては決まっておりませんが、その辺は詰めてまいりたいと思っております。

鈴木副会長

今の佐藤委員の質問、私もすごくそう思っていて。別の審議会の委員をしている時に、小さいお子さんがいらっしゃるお母さんを教育講演にどうやって出してあげられるかといったときに、まず託児ボランティアを作るところから実は始まったんです。今回の計画を見ると非常に連携をしなければ実現しないということを検討委員会をやっているときにわかったので、これまで出て来れなかった人の利用、「スポ少に送るのにとっても土日は忙しくて駄目です」とか20代から40代のお母さんの忙しさというのはすごいんです。だから、送っているような時にでも違うことでお母さんたちを元気にできないかなと。3才とかの託児ではなくて中学生とかそういったお母さんたちを応援してストレス解消的な意味でも何か違う連携ができればと感じています。

もう一つよろしいでしょうか。岡崎委員の研究者レベルのお話にすごく共感して。年度内に結果を出さなければならないとすると、出せる指標はどれかということになってきてしまって。私も厚労省の方の運動の効果ではないものを仙台市という中で新たな指標を作っても良いと思います。今のスポ少とか20代から40代のお母さんたちが、まずは1回やっただけでもこう変わったという1回だけの教室の中で意識が変わってそれを何回かやっているうちにちょっとまた形になっていくというような心理的な変化のところですね。あと不安であるとかそういうものが少し変わってくるのか。コレステロール値をこうとか20代40代はそんな3ヶ月とかで変化が出るわけがないので厚労省の方の動機付け支援とは全く違う仙台市の「こう変わるよ」みたいな1度ごとのものと教室が終わった時の意識変化、人間関係とか参加した人の仲間がこういうふうに最初アイスブレイクでこうだったのに3ヶ月経ったらこうなったとかそういうあたりのところの変化を出せたらいいなと思いました。

事務局

只今の2点、貴重なご提案をいただいたとっておきまして、1つ目のご提案に関しては今回の取り組みは1か年度の取り組みですけれどもこの意味としては先々に向けての様々な試行的な意味合い、ここで取り組んだことがどういうふうなことであったかということを知づくためのものであるとっておきしておりますので、そういう意味では委員にご指摘いただいたように未就学児だけではなくて少し大きいお子さんも含めてともかくそういうお子さんを抱えた女性の方、保護者の方がどういう付帯機能があればこういう場に出て来れるかというふうなものを考えてまいりたいとっておきしております。2つ目のご指摘はまさしくそのとおりであります。ただ、普段の生活の中で常々血圧を測っている方もいらっしやいますけれども大抵はそうではなくて「思ったよりも体を動かしてみたら気持ちよかった」とか「こういうふうに誰かと話しができるって気持ちが楽になるもんだな」とか恐らく定量化し難い、そういうものがあるんだなど、こういう気付きを持ってもらうということが大事なのだと考えます。そのような個々人が感じたものをどう共通認識としていくかということについても考えてまいりたいと思います。

岡崎委員

もう一つ大きな目標としてまちを元気にするというのもあると思いますので、どういう地域の方が参加しているのか、こういうイベントを開催すれば仙台市のこういう地域の方が来られてみたい。そこで来られていない地域があるとすればどういったところに難しさがあるのかそういう社会経済的な分析も必要になってくるのかなと思うんですけれども。

篠崎委員

まさにそのような分析は重要だと思っておきまして。何がスポーツの習慣を引き起こすのかということについての各施策の例えば啓発についてとかそれぞれの評価というものをきっちりとしたものではなくてもよいのでそれぞれを例えばマイタウンスポーツデーでの啓発だとかスポーツフェスタの啓発自体がどのように下につながっているのかということをはっきりしたものじゃなくてもいいので一つ一つ評価していくということで、今、岡崎さんがおっしゃいましたけれどもこの地域から人が来て何につながっているのかという経路を見ていくとより実行的な施策が展開できるのかなと思います。

事務局

ありがとうございます。ご指摘いただいたことは、非常に大事な点だと思っておりますので、その点については逆に我々の方も両委員にも色々お力添えであつたりご助言などをいただきながら考えていくことができればと思っておりますのでぜひよろしくお願ひいたします。

仲野会長

もう一つだけ。ちなみにこれは募集をするわけですけれども、どのよ

うな形で募集をされるのか、募集の仕方についてはいかがでしょうか。

事務局

告知であったり参加者の呼びかけ周知そういったものについては khb 様にご協力いただけることになっておりますので、まずはそういったメディアを通じてお声がけをさせていただいて関心を持っていただき、応募もしていただくという形で考えておりました。

仲野会長

ありがとうございます。そのほか特によろしければ、資料3については以上で終わりたいと思いますがよろしいですか。

全委員

異議なし。

仲野会長

ありがとうございます。大変貴重なご意見がでましたのでそれを踏まえてぜひ実施に向かって進んでいければというふうに思います。

それでは、本日の報告は以上になりまして、議事の一切を終了ということになります。この際ですので委員の皆さまから何かございましたら言っていただければと思いますがよろしいでしょうか。

仲野会長

特にございませぬようですので、事務局にお返ししたいと思います。

(4) 閉 会